

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 2 号

大阪大谷大学教職教育センター紀要第 2 号発刊にあたって	仲野 務… 1
《論文》	
体育の教科指導に関する研究 ——バスケットボール教材におけるステップアップルール を用いたゲーム指導について——	宮内 一三… 4 三木 伸吾 亀井 安子
教員の資質能力形成における「養成」段階と「採用」段階の連結性 ——「とりたい」と「なりたい」の相違に着目して——	開沼 太郎… 13
《研究動向》	
教員養成は学校現場との連携がかなめ ——外部から見た教職教育センターの意義と役割——	三宅 奎介… 29
《研究ノート》	
国語教育における電子黒板の事例報告	更エ 貴美… 37
《事業報告》	
平成 22 年度「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告	仲野 務… 42 峯山美智子 川合 智子
教職教育センター年間行事の効果について	岡崎由紀美… 51
「実践アクセス講座」（公開講座）に取り組んで ——「なりたい」意欲を基盤に、教員としての資質能力の向上 をめざす「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の役割——	徳田喜代士… 69
教師のお仕事入門（小学校・中学校・高等学校体験）	宇野 佳子… 81

2011 年 3 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 2

Message from the Center Director	Tsutomu Nakano	1
《Articles》		
A Study on “Step-Up Rule” Development and Application for Basketball Game Guidance in Physical Education	Ichizo Miyauchi Shingo Miki Yasuko Kamei	4
Policy Background and Significance of Connection between Training and Recruitment Phases of Teacher Training : Observations from Osaka Ohtani University’s Experiences	Taro Kainuma	13
《Research trend paper》		
Importance of University-School Collaborations in Teacher Training in Enhancing Significance and Fulfilling Roles of Teacher Training Support Center	Keisuke Miyake	29
《Research note》		
Case Report : Use of Interactive Whiteboard in Japanese Language and Literature Education	Kimi Sarae	37
《Activity Reports》		
Overview of Teacher Training Support Center Activities in 2010	Tsutomu Nakano Michiko Mineyama Tomoko Kawai	42
Detailed Report on Teacher Training Support Center Activities in 2010	Yukimi Okazaki	51
Report on University-Based Lecture Sessions Taught by Practicing Teachers for the Cultivation of Intending Teachers’ Abilities	Kiyoshi Tokuda	69
Report on School-Based Hands-on Courses for Intending Teachers of Elementary, Junior and Senior High Schools	Yoshiko Uno	81

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

平成 22 年度

「大阪大谷大学教職教育センター」事業報告

仲野 務*・峯山美智子**・川合 智子***

I. 概要報告にあたって

教員になるには、多くのことを身につける必要があります。大阪大谷大学教職教育センター（以下「センター」という）は、教職に携わることを目的とした学生を対象に、入学から卒業まで、教職に関する履修相談から就職活動までをサポートすることを目的として、開設2年目を迎えました。

教職課程を有する学科は、文学部の日本語日本文学科、英米語学科、文化財学科と、教育福祉学部教育福祉学科、人間社会学部人間社会学科の合計5学科であり、各種学校園の教員免許状取得をめざしている。本気で教職に就くことを希望している学生に対して、入学時から免許状を手にする卒業に至るまでの支援をセンターが担っていることに教職員一同誇りを感じ、一人でも多くの学生を教壇に送りだせることを、今後も目標としたい。

II. 平成 22 年度のあゆみ

1. 教職支援課の設置

昨年度は教職教育センターとして、教職に就くために頑張っている学生の教職支援を行ってきたが、今年度からは幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教育実習および、「介護等の体験」などの教職課程に関する業務が移管されたことにより、教員を夢見ている学生のバックアップを一元的に支援するという意味から「教職支援課」として再出発することになった。教員になる過程で、活用しやすく居心地のいい場所としてセンター規程第2条に掲げるとおり、本学の教育職員養成課程運営の拠点となり、学生指導、教職課程履修指導、教育実習指導および教員採用試験対策等を含めた教職指導の充実を図り、教員養成の向上に努めるこ

*大阪大谷大学教職教育センター長

**大阪大谷大学教職支援課長

***大阪大谷大学教職支援係長

とを目的とする。

2. 施設と設備

教職教育センター設置から 1 年が経過し、学生の利用も定着するに従って、いくつかの問題点が浮上した。その中で最大の問題は、学習スペースの確保である。3 号館 2 階という限られたスペースに少しでも座席を増やすため、教育福祉学科の専攻科生室を学習スペースとして使用することが認められた。当初から設置されていた「学生学習コーナー」を「グループ学習コーナー」、専攻科生室を「個人学習コーナー」とすることにより、学生が自由に使用できる学習スペースが確保された。

また、個人学習コーナーは、今年度からカリキュラムに新設された「キャリア教育科目」である「教職基礎演習」の教室としても使用している。

教職教育センター室には、事務局として教務課教職教育センター事務室がおかれていたが、教務課から教職課程に関する業務が移管されたのに伴い専任職員が 2 名増加され、あらたに教職支援課として独立することになった。人員・業務が増えることにより事務机等の物品や資料等も増え、窓口時間も以下のとおり変更された。

平成 21 年度 9:00～17:30

平成 22 年度 9:00～11:20 12:20～17:30

3. 組織および配置

平成 22 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務）	1 名
センター教員（兼務）	2 名
教職教育担当特任教授	2 名

職員：教職支援課 課長 1 名、係長 1 名、課員 2 名
派遣職員 1 名（合計：専任 4 名、派遣 1 名）

センター長は、センター教員から学長により任命され、センターを統括しセンター運営会議を招集する。また、教育職員養成課程委員会の委員長を兼務する。

教職教育担当特任教授 2 名は、それぞれ小学校・中学校の校長を務められた教員で、勤務時間は、週 4 日間 10 時～18 時までとなっている。センターに常駐し、どんな時でも学生は距離を感じることなく相談ができ、学校現場や教育委員会との連携などを主な業務としている。

Ⅲ. 業務内容

1. 教職支援課の役割

平成 22 年度の幕開けはオリエンテーションから始まった。4 月には、平成 21 年度同様、センターの教職員が、新入生に向けて教職教育センターのオリエンテーションを実施した。

まもなく教育実習が始まり、昨年度とは一味違った学生層がセンターを訪れることになった。

平成 22 年度から本学設置科目に、「共通教育科目」、「専門教育科目」カリキュラムに加え、「キャリア教育科目」が新設され、教職に特化した科目として、「教職基礎英語」「教職基礎日本史」「教職文章表現」「教職基礎演習ⅠA」「教職基礎演習ⅠB」「教職基礎演習ⅡA」「教職基礎演習ⅡB」「教職基礎演習ⅢA」「教職基礎演習ⅢB」「教育福祉インターンシップⅠ」「教育福祉インターンシップⅡ」「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の 13 科目が設置された。これらは、教員採用試験対策の科目として、教職をめざす上で役立つ授業内容となっている。基礎学力向上を目指し、不得意な科目にも積極的にチャレンジできる授業や、実践力向上のため教育現場から講師を招いて「今の教育を知り、未来の教育を考える」環境を提供できるようにした。

平成 22 年度の業務は、「大阪大谷大学教職教育センター規程」の第 3 条（1）から（11）に規定されている。（「インターンシップ業務」を除く）

「教員になる」という学生を中心に教職課程の履修指導から教育実習、教採対策、教職就職に至るまで、学生密着型のトータルな窓口として機能するよう努めている。

2. 委員会

平成 21 年度に形成された教職教育センターでは、教職教育センター運営会議をはじめ既存の教育職員養成課程委員会（以下「教職課程委員会」という）に加え、教職対策委員会、教職研究開発委員会を 3 本柱に平成 22 年度がスタートした。



センター運営会議

第 1 回

日時：平成 23 年 1 月 26 日（水）12 時 20 分～13 時

場所：センター会議室

議題：「大阪大谷大学教職教育センター規程」の一部改正について

第 2 回

日時：平成 23 年 2 月 23 日（水）12 時 20 分～13 時

場所：センター会議室

議題：平成 23 年度センター教員の選出について

教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 22 年 4 月 28 日（水）12 時 30 分～12 時 50 分

場所：本館第 3 会議室

議題：「大阪大谷大学教育職員養成課程委員会規程」の変更について

教職課程委員長選出について

平成 22 年度の教育実習等について

免許更新講習について

平成 22 年度教職課程予算書について

第 2 回

日時：平成 22 年 6 月 23 日（水）16 時 20 分～17 時 30 分

場所：本館第 1 会議室

議題：「介護等の体験」実習受付について

平成 22 年度入学生の「履修カルテ」について

第 3 回

日時：平成 22 年 11 月 10 日（水）12 時 20 分～13 時

場所：センター会議室

議題：平成 22 年度「教育実習」について

平成 22 年度「介護等の体験」についての課題

第 4 回

日時：平成 23 年 2 月 2 日（水）13 時～14 時

場所：センター会議室

議題：平成 23 年度「介護等の体験」オリエンテーションについて

志学台改革による課程認定の申請および届出業務について

第 5 回

日時：平成 23 年 3 月 9 日（水）13 時～14 時 15 分

場所：センター会議室

議題：平成 23 年度教育実習日誌について

教職対策委員会

第 1 回（教職研究開発委員会合同）

日時：平成 22 年 5 月 19 日（水）12 時 20 分～12 時 55 分

場所：センター会議室

議題：委員長・副委員長の選出

今年度の両委員会開催予定について

第 2 回

日時：平成 22 年 7 月 14 日（水）16 時 20 分～18 時 30 分

場所：センター会議室

議題：今年度の課題について

平成 23 年度「教職課程履修ハンドブック」について

第 3 回

日時：平成 23 年 3 月 2 日（水）16 時 50 分～18 時 30 分

場所：センター会議室

議題：今年度の反省について

来年度体制について

平成 23 年度の教職基礎演習について

平成 23 年 4 月スケジュールについて

教職研究開発委員会

第 1 回

日時：平成 22 年 5 月 19 日（水）12 時 20 分～12 時 55 分

場所：センター会議室

議題：委員長・副委員長の選出

「センター紀要」発送先について

今年度の委員会開催予定について

第 2 回

日時：平成 22 年 6 月 30 日（水）12 時 20 分～12 時 55 分

場所：センター会議室

議題：「センター紀要」第 2 号刊行予定について

第 3 回

日時：平成 23 年 2 月 23 日（水）11 時 45 分～12 時 30 分

場所：センター会議室

議題：平成 23 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書について

「2010 報告書」発行について

「センター紀要」2 号の進捗状況について

前述の委員会のほかに、センターの情報共有の意味から今年度より「センターランチミーティング」を開催することになった。開催日時について、教職員全員がそろそろ水曜日のお昼休みに設定した。メンバーは、センター長、センター教員、教職教育担当教員、教職支援課員 6 名（派遣職員含む）で、昼食を食べながら学生の動向及びセンターの現況報告の場としている。センターの委員会に比べラフな位置づけのため、直近の課題について、教員と職員の双方から情報交換をすることにより、学生の現状を多方面から気づける機会となった。勿論センター業務の分担を再確認することも大きな成果となった。

センターランチミーティング（場所：センター会議室）

第 1 回

日時：平成 22 年 10 月 27 日（水）12:20～13:00

議案：平成 23 年度「教職基礎演習Ⅰ、Ⅱ」担当教員について

平成 22 年度 GP 報告書の分担について

平成 22 年度 GP 補助金の進捗状況について

第 2 回

日時：平成 22 年 12 月 8 日（水）12:20～13:00

議案：人社センターツアー報告について

「タニスパ」宣伝 DVD 放映について

3 年生対象「教職オリエンテーション」について

Z カード（案）の紹介

平成 23 年度介護等の体験について

第 3 回

日時：平成 23 年 1 月 12 日（水）12：20～13：00

議案：平成 23 年度 教職教育センターオリエンテーションについて

「教職基礎演習」の抽選について

来年度予算について

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

本学では、文学部の日本語日本文学科、英米語学科、文化財学科、教育福祉学部教育福祉学科、人間社会学部人間社会学科の 5 学科に教職課程が設けられている。4 月の履修登録時に各種免許の資格登録をした学生に、校種別の「内諾オリエンテーション」を実施する。学生は、それぞれ内諾をいただきに 5 月連休をめぐりに実習先を訪問し、いよいよ次年度に実習に行く覚悟をすることになる。

実際に教育実習に行くためには、資格登録年度に次年度「教育実習」「教育実習指導」の履修に必要な科目を修得しないと行けない。そのため、各種教員免許の資格登録をした学生について、膨大なチェック作業をしなければならなかった。もしその結果、教育実習に行けなくなった場合は、すでに内諾をいただいている受入先の学校園へ取り消しのお詫びに行くこととなる。このような個々の学生対応は一例であるが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校と校種も多様なため、学生対応のみならず実習期間とする 2 週間から 4 週間のうちに起こるトラブル対応に、実習担当の教員と職員が協働して、さまざまな局面を乗り越えた。

「介護等の体験」を必要とする小学校・中学校の教員免許取得希望学生は、教育実習以外に福祉施設等（5 日間）、特別支援学校（2 日間）で障がい者、高齢者の介護、介助の体験をすることによって、思いやりのある教員になることが望まれている。実際には、事前オリエンテーション①②③の実施から、大阪府社会福祉協議会、支援学校への申し込みを経て、「介護等の体験」が実施される。2 回生、3 回生、4 回生が常に行く実習となっているため年間を通した業務となっている。

4. 教職教育センターレポート

教職教育センターからの情報発信手段として、平成 21 年度は教職員対象に「教職教育センターだより」をメール配信していた。内容は、A4 用紙 1 枚程度に教員採用に関する情報や、センター主催行事への参加結果等をまとめたものであったが、平成 22 年度は、行事案内や、センターの近況をリアルタイムに報告するため、一回の情報量は減らし、配信回数を増やす方針に変更した。12 月末からになったが、名前を「教職教育センターレポート」として専任教員宛にメール配信を開始した。

内容は以下のとおりである。

号 数	配信年月日・内容
22-1 号	平成 22 年 12 月 17 日 ・講師登録 ・教職への就職支援にあたって
22-2 号	平成 23 年 1 月 11 日 ・「教師のお仕事入門」のご案内
22-3 号	平成 23 年 1 月 19 日 ・「教職教養対策講座」のご案内
22-4 号	平成 23 年 2 月 22 日 ・センター室内の資料紹介

5. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第 2 号を発行することとなる。紀要発行の進捗状況等については、教職研究開発委員会で報告した。

今年度は、「大阪大谷大学教職教育センター紀要編集規程」の目的の条文改正が平成 22 年 7 月 7 日の教授会において承認された。

IV. 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）の実績と成果

名称：『免許を「とりたい」から教員に「なりたい」へつなぐ学生就職支援』

期間：平成 21 年度～平成 23 年度

文部科学省 平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）は、今年で 2 年目の事業となった。名称のとおり、「教員免許状を取得することが目標」だった学生が「子どもたちの前に立つ教員」を目指すための支援ができるような取組である。

具体的には、以下の講座を実施した。

- ・教師の仕事入門講座
- ・学力向上基礎講座
- ・現場実践経験基礎講座

取組の各講座は、教職に興味のある学生に幅広く受講できるように企画した。

この 3 つの取り組みのうちから「学力向上基礎講座（学内名称：「学力 UP！スパイラル講座～Ohtani ver. 通称「タニスパ）」について周知する方法を検討した結果、次の 3 点に絞って広報することにした。

① 今年度からタニスパの時間内を利用し、各教科を分野ごとに基礎から学べる『“タニスパ” presents「45分で分かるかもしれない」スポット講座（通称：「タニスポ」）』をスタートさせた。

② 「タニスパ」「タニスポ」を利用したいが、実施時間に都合がつかない学生のために、収録データを閲覧することができるタッチパネル PC を有効活用して貰う。

③ もう一度改めて「タニスパ」の趣旨や利用方法などを分かりやすく周知する。

昨年度は、在学生在が作成したポスターやビデオを使って周知をした。一部の学生には効果的であったが、教員養成課程のある学部全学生に「タニスパ」の内容を周知するには不十分であった。

そこで教職を目指す学生の一人ひとりに確実に周知できる方法として、知りたい情報をいつでも確認でき、尚且つパンフレットよりも捨てられにくく、携帯性の高い Z カードを採用し、これをニューズレターとして発行することとした。

いよいよ来年度は、取組の最終年度となるため今までのテキストファイルやビデオによる映像の収録等により保存されたデータベースを、学生の自発的相互学習に資するため「教職リテラシー育成テキスト」としてまとめる作業が必要となる。

以上、教職教育センター事業における平成 22 年度の事業活動を教職対策関係行事以外の内容でまとめたものである。

【事業報告】

教職教育センター年間行事の効果について

岡崎由紀美*

全学部の教職をめざす学生が段階的に意欲を高め、モチベーションを保てるように年間行事を計画した。また、昨年の反省を踏まえ実践的な内容を増やすとともに学生のニーズを捉えながら、随時行事を実施した。他部署の行事や授業との重なりにより、参加できない学生には、個別対応や行事のビデオ視聴等で対応した。

行事は「説明会」、「対策」、「オリエンテーション」という三つのカテゴリで分類した。個々の行事をこのカテゴリ別に報告する。

また、特に学生が高く関心を持った行事については、他の行事への参加や教職教育センターの利用へとつなげるような工夫・企画を探り、教職をめざす学生のモチベーションを高めるよう考えた。

I. 説明会

1. 教職学内セミナー（教員採用試験説明会）

近隣自治体（大阪府・大阪市・堺市・京都府・和歌山県・奈良県）の教育委員会より講師を招聘し、教員採用試験の実施状況や募集概況、各教育委員会が求める人物像などについて説明していただいた。教育委員会ごとに設定した各教室を学生が訪問する方式で実施した。

① 4 回生対象 教職学内セミナー（大阪府・大阪市・堺市）

日 時：4月14日（水）4・5限

参加人数：102名

表1 平成22年4月14日実施 教職学内セミナー 時間割

教育委員会名	教室	14:40~15:25	15:45~16:30	16:50~17:35
		説明①	説明②	説明③
大阪府	3-103	○	○	○
大阪市	授業模擬実践室	○		
堺市	教材機器室	○	○	○

*大阪大谷大学教職支援課

教職教育センター年間行事の効果について

内 容：7月に実施される教員採用試験の実施要項の配布及び各教育委員会が求める人物像や教育委員会の取り組み等をお話していただいた。

学生のアンケートより

- ・2回生の時から、教育委員会の説明会には何度も参加させていただいているのですが、その度に「なりたい」「頑張ろう」という気持ちになることができます。今回は直前のものなので、特にそのような気持ちが出てきてかなり身が引き締まる思いでした。
- ・テスト内容・出願について自分でもわからないところが残っていたので、今回のセミナーですっきりした。説明していただいた先生からのエールをしっかり受け止めたい。
- ・かなり親身にお話をしていただき、また、内容に関しても踏み込んだところまでお話いただいととてもためになりました。改めて意欲がわきました。
- ・採用試験について具体的な説明が聞けたし、最後のエールを聞いて少し自信がついたように思った。受験案内も配布されて、「いよいよ」という気持ちになった。
- ・「マニュアル化された答えはいらない！」というアドバイスにハッとしました。
- ・「教採に受かる」のではなく「先生になりたい」のだと改めて気付くことができました。一人の人間として子どもたちの前に立つのにマニュアル化した人間ではつまらないのだと思いました。大阪府の先生になれるよう、ますます頑張っていきたいと思いました。

表2 平成22年4月14日(水)実施 教職学内セミナー参加状況

学部	訪問した教室の数	1つ	2つ以上	計
文学部(大学院生1名含)		9名	11名	20名
教育福祉学部		51名	24名	75名
人間社会学部		4名	3名	7名
合計		64名	38名	102名

② 4回生対象 教職学内セミナー(和歌山県・奈良県・京都府)

日 時：5月19日(水)4・5限

参加人数：41名

内 容：7月に実施される教員採用試験の実施要項の配布及び各教育委員会が求める人物像や教育委員会の取り組み等をお話していただいた。

年度当初は、兵庫県教育委員会にもご協力いただく予定であったが、前年度の説明会への参加実績数が少なかったことなどから、不参加となった。

教職教育センター年間行事の効果について

表 3 平成 22 年 5 月 19 日（水）実施 教職学内セミナー 時間割

教育委員会名	教室	14:40～15:25	15:45～16:30	16:50～17:35
		説明①	説明②	説明③
和歌山県	3-103	○	○	
奈良県	授業模擬実践室		○	○
京都府	教材機器室	○	○	○

学生のアンケートより

- ・直接お話しを聞いたことで、変更点などもよりわかりやすかったと思います。質問もできてよかったです。
- ・奈良県教育委員会が求めている人物、教員像を教えていただいてよかったです。やはり、人柄がすごく大切だと思いました。また、「『愛の心』を持っていこう」というスローガンが素敵だと感じました。きちんと自分自身のことをありのままに出していくことが大切だと思いました。
- ・教採の話だけでなく、現場での体験談や講師の方が現場で大切にしていたことや思い、考えなどもお話いただけて、教員になるためにさらにならばろうと思いました。
- ・教師という仕事への想いを聞いてよかった。「なんとかなる」「子どもがいるからクラスが成り立つ」という考え、本当に素敵だと思った。自分も教育者として現場に立ちたいと思えた。

表 4 平成 22 年 5 月 19 日（水）実施 教職学内セミナー参加状況

学部	訪問した教室の数	1つ	2つ以上	計
	文学部（大学院生1名含）		4名	3名
教育福祉学部		19名	3名	22名
名間社会学部		10名	2名	12名
合計		33名	8名	41名

③ 3 回生対象 教職学内セミナー（大阪府・大阪市・堺市・和歌山県・奈良県）

日 時：12月8日（水）4・5限

参加人数：103名

内 容：4月に実施した4回生対象の教職学内セミナーと同じスタイルで実施した。教育委員会ごとに設定した教室を学生が訪問し、1コマ45分の話聞いた。来年度の教員採用試験に向けて、各教育委員会の取り組みや本年度実施の教員採用試験

教職教育センター年間行事の効果について

のことなどをお話していただいた。

表 5 平成 22 年 12 月 8 日（水）実施 教職学内セミナー 時間割

教育委員会名	教室	14:40～15:25	15:45～16:30	16:50～17:35
		説明①	説明②	説明③
大阪府	3-103	○		
大阪市	3-103		○	
堺市	教材機器室	○	○	○
奈良県	授業模擬実践室		○	
和歌山県	センター室	○		○

学生のアンケートより

- ・具体的な試験内容を知ることができたのでより対策を立てやすくなりました。もうすぐ教員採用試験を受けるんだと気持ちを高めることもできたので良かったです。
- ・大阪府教育委員会の方々がどのような人物像を求めているのかということを知ることができて良かった。実際の試験では、自分を表現できるような努力をしておきたいと思う。
- ・教員採用試験の倍率が昔ほど高くはないが、簡単に受かるということではない。面接などでマニュアル通りの答えではなく、どれだけ自分を出せるかが大切だと学んだ。
- ・具体的な試験日や内容などを聞いて、これからの予定や見通しがつけやすくなりました。自分を知ってもらうために、もっと自分が自分を知ろうと思いました。また、「大阪の教育力」向上プランのことなど、ここでしか聞けないことも聞いてよかったです。
- ・大阪府と大阪市の違いが知れて良かったです。「教師は五者たれ」をもう一度確認できて、良かったです。
- ・奈良県が目指している教師像を熱心にお話してくださり、とても良かったです。子どもたちは教師の鏡であり、子どもたちのことを理解しようとする前に、まず、自分の子どもたちへの対応を見直すなど、教員になりたいと思えるお話でした。

表 6 平成 22 年 12 月 8 日（水）実施 教職学内セミナー参加状況

学部	訪問した教室の数	1つ	2つ以上	計
	文学部（大学院生1名含）		0名	10名
教育福祉学部		39名	49名	88名
名間社会学部		2名	3名	5名
合計		41名	62名	103名

学生の参加状況を学部ごと、参加コマ数別に集計した結果は（表2・表4・表6）に示すとおりである。文学部・人間社会学部の参加者数は少ないが、熱心に話を聞いていた学生の姿が印象的であった。

3回生の冬には、受験する自治体を決めかねている学生も見受けられるが、4回生の春までには、受験する自治体がほぼ固まってくるようである。

3回生時に、教育委員会が求める人物像や採用試験の状況を把握することが、学習意欲の向上につながるので、説明会直後に目標を設定し、モチベーションを維持するための仕掛けづくりが重要となる。

また、他大学の学生や講師経験者との交流は教職をめざす学生のモチベーション向上に必要である。教師塾をはじめ、各教育委員会主催の説明会の参加など、外部行事へも参加するように次年度は、さらに早い時期から繰り返し呼びかけることを検討したい。

2. 教師塾等説明会

教育委員会が実施する教師の卵を育てるためのプログラムは、通称「教師塾」と言われている。近隣で「教師塾」を実施している教育委員会から講師を招聘し、昼休みを利用して入塾のための説明会を実施した。

① 堺教師ゆめ塾説明会

日 時：5月14日（金）昼休み

参加人数：8名

内 容：昨年度及び今年度のプログラムの紹介や塾生の採用試験結果等、堺市独自の取り組みや本学卒業生が活躍している様子など。受講対象者が4回生や社会人を含むのも特徴の一つである。

② 大阪市教師養成講座説明会

日 時：5月18日（火）昼休み

参加人数：9名

内 容：昨年度及び今年度のプログラムや講師の紹介、受講生の感想など。

③ 大阪教志セミナー説明会（大阪府）

日 時：5月21日（金）昼休み

参加人数：15名

内 容：これまでのセミナーの様子をまとめたDVDを視聴後、受講生の感想や欠席時の対応等について。

④ 奈良県ディア・ティーチャー・プログラム

日 時：5月31日（月）昼休み

参加人数：4名

内 容：今年度のプログラムと奈良県の教育について

3. 講師登録説明会

後期授業開始直後と採用試験最終結果発表後の2回実施した。先輩たちの成功例や失敗例などを交えて、教職教育センター教員より説明を行った。学生の希望状況を把握し、きめ細やかな支援を行うため「学内講師登録調査票」を配布し、メールアドレスの登録を呼びかけた。

① 第1回 9月21日（火）昼休み／参加人数 約100名

教員採用試験の最終結果発表前のため、結果待ちの学生が参加したことで、多人数となった。

② 第2回 11月2日（火）昼休み／参加人数 約40名

II. 対策

1. 教員採用試験対策講座（4回生対象）

① 面接・エントリーシート対策

日 時：4月28日（水）4限

参加人数：137名

内 容：教職教育センター教員による講義。面接を受ける際の注意点や心構え、自己PRの組立て方などを説明後、エントリーシートの作成練習を実施した。

② 一次筆記試験直前対策

日 時：5月8日（土）14時～16時

参加人数：57名

内 容：2ヵ月後に迫った採用試験に向けて外部講師による重点対策。近年の採用試験の傾向や注意点、頻出事項などについて過去の問題を用いながらの説明、併せて自学で難しい直近の「教育時事」について解説された。

③ 幼稚園教員採用試験対策講座

日 時：5月12日（水）13時～15時

参加人数：12名

内 容：外部講師を招聘し、夏と秋に行われる公立幼稚園の採用試験対策についての講演。特に自治体による幼稚園教員採用試験の違いや近年の採用動向、試験の傾向と対策について、例題の解説なども交えて説明された。

教職教育センター年間行事の効果について

④ 面接対策講座

日 時：5月26日（水）4・5限

参加人数：69名

内 容：教職教育センター教員による講義と実践練習を実施。面接を受ける際の注意点や心構え、自己PRの組立て方などを説明後、エントリーシートの作成練習。休憩をはさみ、学生が各自1分間の自己PRを発表した。

⑤ 面接対策講座

日 時：6月16日（水）4・5限

参加人数：36名

内 容：5月26日（水）に実施した内容の復習をした。

⑥ 模擬面接編

日 時：7月7日（水）4・5限

参加人数：63名

内 容：参加者全員を対象に模擬面接を実施した。教職教育センター教員が面接官役を務め、学生一人当たり一分間の自己PR及び志望動機を発表した。

⑦ 特別支援教育について

日 時：7月14日（水）5限

参加人数：43名

内 容：筆記試験に必出である特別支援教育について本学教育福祉学部の教員による現場や子どもたちの状況を交えながらの講演。特に特別支援教育の免許状を取得しない学生にとっては学ぶ機会が少ないため講座として開催した。

⑧ 二次面接編

日 時：7月28日（水）4・5限

参加人数：28名

内 容：教職教育センター教員より、二次試験の模擬授業や場面指導などについて指導した。

4月から7月末に4回生を対象として実施した採用試験対策講座への参加数と、教員採用試験の結果は下記の通りである。

表7 教員採用試験の合格者数と教員採用試験対策講座への参加者数

一次試験合格者数(A)	(A)のうち1回以上講座へ参加した者の数	84.7%	(A)のうち2回以上講座へ参加した者の数	63.9%
72名	61名		46名	
最終合格者数(B)	(B)のうち1回以上講座へ参加した者の数	93.3%	(B)のうち2回以上講座へ参加した者の数	75.6%
45名	42名		34名	

卒業生からは、講座やオリエンテーションをきっかけに仲間同士で、励まし合い、頑張り通す力につながったという声を耳にするが、複数で取り組むことで、自分に足りない点や他の人の良い点、見習う点などが比較でき、安心して筆記試験や面接試験に臨んでいるようである。

個人学習のほうが自分に向いているという学生には、学習や面接時に役立ててもらえるよう、次年度は学習進度のチェックや演習の時間を確保したいと考える。

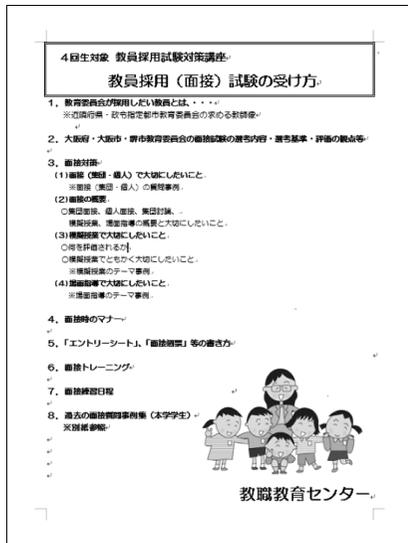


写真1 教員採用試験対策講座資料

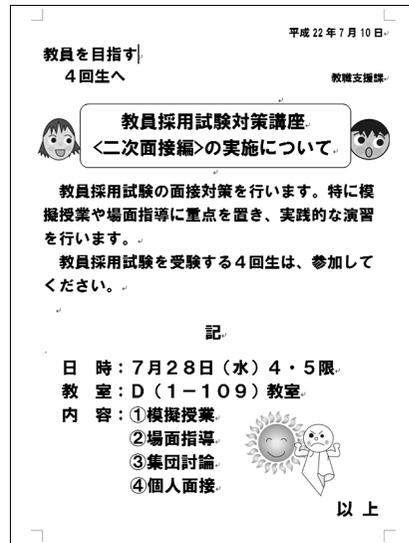


写真2 教員採用試験対策講座案内掲示

2. 面接・グループワーク等練習

6月第1週から9月中旬までの連日、グループ面接・個人面接・集団討論・場面指導・模擬授業の練習を実施した。練習の申し込みは予約制とし、教職教育センター窓口に設置した面接予約表の希望の日時に名前を記入することとした。

昨年度の反省より、模擬授業や集団討論の練習の機会を増やし、一人当たりの練習回数の見直しなどを行い、希望する学生がより多く面接の練習ができるように考慮した。

① 第一次試験対策 面接練習

期 間：6月7日（月）～7月23日（金）

参加人数：延べ463名（前年比 228.9%）

② 第二次試験対策 面接練習

期 間：7月26日（月）～9月10日（金）

参加人数：延べ344名（前年比 99.1%）

面接練習の実施にあたっては、昨年に引き続き、学内の教員にも面接指導を依頼した。より

多くの協力を得て、面接方法にも広がりが出、様々な視点、観点からの練習ができた。

3. 特別対策講座

学内の教員の協力を得て、複数回、対策講座を実施した。実施にあたっては、事前申込制とした。

① 音楽実技対策（幼稚園教員希望者向け）

参加人数：2名

日時：6月2日（水）昼休み

内容：第1回目のレッスン及び今後の日程調整を実施した。その後については、自由参加とした。

② 音楽実技対策（小学校教員希望者向け）

参加人数：15名

日時：6月30日（水）5限

内容：教育福祉学部の教員より講座の進め方について説明を行い、各自の課題決定と今後の日程調整を行った。その後については、自由参加とした。

③ 小論文対策

参加人数：26名

日時：6月21日（月）から開始

内容：教育福祉学部の担当教員が、学生の受験自治体別に対策資料と課題を教職支援課の担当者に渡し、申し込んだ学生が教職教育センターで課題を受け取る。学生は課題が出来次第、教員に提出。教員は2日後に添削した課題を返却し、学生はそれを元に再度書き直し提出。これを試験まで複数回繰り返すこととした。

④ 体育実技対策（小学校教員希望者向け）

参加人数：40名

日時：7月3日（土）・17日（土）9時～12時半

内容：教員採用試験で課される跳び箱、マット、ハードル、水泳について教育福祉学部教員、教職教育センター教員、外部講師の3名で指導にあたった。前半は体育館内の競技、後半は水泳を実施した。

⑤ 外国語活動解説講座（小学校教員希望者向け）

参加人数：5名

日時：7月10日（土）13時～14時半

内容：小学校学習指導要領の改訂に伴い外国語活動の授業時数が定められた。学習指導要領の内容を理解し、学校現場での外国語活動に生かすことを目的に講座を実施

した。

⑥ 図画工作対策

参加人数：13名

日時：7月17日（土）10時～16時

内容：教育福祉学部の教員が、午前は注意点などについての講義。午後は、課題の制作を行い、その制作物についての指導を行った。

⑦ 体育実技対策（中学校・高等学校教員希望者向け）

参加人数：11名

日時：8月26日（土）9時～12時半

内容：教員採用試験の二次試験で課される陸上競技・球技・水泳について、経験豊かな講師を招き、受験時の心得や注意点などについてアドバイスをいただいた後、実技指導を受けた。

*人間社会学部主催 面接（模擬授業を含む）・体育実技対策講座

人間社会学部の学生を対象として学部で開催する対策講座の実施情報をいただき、教職教育センターでも学生への参加呼びかけを行った。

日時：7月3日（土）2限 8月9日（月）午前

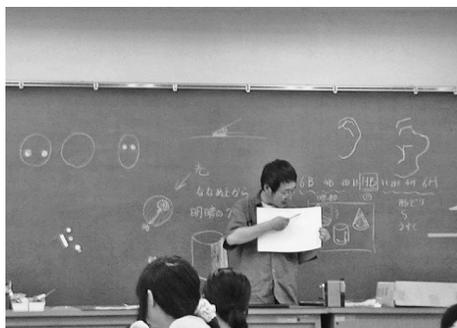


写真3 図画工作対策



写真4 体育実技対策

4. 教職模試

学内で時事通信出版局及び東京アカデミーによる模擬試験を前期に5回、後期に1回実施した。また1月には、学外実施の模擬試験についての申し込みを行った。受験対象学年は限定していないが、前期の受験者の大部分が4回生で、後期は、次年度に教員採用試験を受験する予定の3回生・4回生が受験した。

① 4月10日（土） 受験者数：20名 出題：時事通信出版局

② 4月17日（土） 受験者数：22名 出題：東京アカデミー

- ③ 5月8日（土） 受験者数：33名 出題：時事通信出版局
- ④ 5月15日（土） 受験者数：28名 出題：東京アカデミー
- ⑤ 6月5日（土） 受験者数：14名 出題：時事通信出版局
- ⑥ 12月4日（土） 受験者数：11名 出題：時事通信出版局
- ⑦ 1月16日（日） 受験者数：12名 出題：東京アカデミー（学外で実施）

5. 外部講師による対策講座（教育後援会推奨講座）

平成23年度受験予定の学生を対象とした一般教養対策（小学校教科対策を含む）と教職教養対策の2つの講座を実施した。「一般教養対策講座」の事前説明会は7月7日（水）、「教職教養対策講座」の事前説明会は1月12日（水）に昼休みを利用し、3-103教室にて開催した。①②とも教育後援会からの援助でテキスト代のみで受講できた。講師はいずれも時事通信出版局よりの派遣者である。③は、昨年度より引き続き、常時実施している。

① 一般教養対策講座（小学校教科内容を含む）

日 時：8月19日（木）・20日（金）・23日（月）・24日（火）4日間 2限～4限

申込人数：17名

内 容：小学校の専門教養で出題される主要4教科（国語、算数・数学、社会、理科）についての講座。一次試験の一般教養、二次試験の小学校教科内容対策として実施した。

② 教職教養対策講座

日 時：2月14日（月）～3月1日（火）のうち月火木金

8日間 2限～4限

申込人数：137名

内 容：教職教養（教育時事・教育心理・教育原理・教育法規・学習指導要領・生徒指導・教育史）の類出事項を講義し、問題演習を通じて得点力を身につけることを目的としている。

③ DVD 講座

教育後援会からの援助で昨年度購入した「教員採用試験対策サクセス講座 実力練成シリーズ一般教養（人文・理数）」（DVD）は、学生が随時、教職教育センター内のパソコンで視聴できる。

利用人数：延べ17名

Ⅲ. オリエンテーション

1. 教員を目指す3回生を対象としたオリエンテーション

① 教職オリエンテーション「教職をめざすにあたって」

日 時：5月12日（水）4限〔欠席者対応：6月1日（火）昼休み〕

参加人数：56名〔13名〕

内 容：教員採用試験の概要・これから始める学習方法・情報の集め方・情報の活かし方について講義した。

② 幼稚園オリエンテーション「幼稚園教諭をめざすにあたって」

日 時：5月25日（火）昼休み〔欠席者対応：随時〕

参加人数：48名

内 容：幼稚園教員採用試験の概要・これから始める学習方法・情報の集め方・情報の活かし方について講義した。また、公立幼稚園と私立幼稚園の違いについても説明した。

③ 教職オリエンテーション「秋から始める勉強について」

日 時：10月6日（水）5限

参加人数：45名

内 容：3回生の活動状況や学習の進行状況を把握し、後期の学習に繋げることを目的に実施した。前半の60分間では、学習のすすめ方について説明し、後半の30分間で、採用試験の体験談や学習方法について、一次試験に合格した4回生4名から体験談を聞く機会を設けた。

④ 幼稚園オリエンテーション「秋から始める勉強について」

日 時：10月20日（水）4限

参加人数：14名

内 容：3回生の活動状況や学習の進行状況を把握し、後期の学習に繋げることを目的に実施した。前半の60分間では、学習のすすめ方について説明し、後半の30分間で、採用試験の体験談や学習方法について、公立幼稚園の一次試験に合格した4回生3名から体験談を聞く機会を設けた。

⑤ 教職オリエンテーション「教員採用試験の傾向と対策」

日 時：11月17日（水）5限

参加人数：48名

内 容：外部講師からの具体的な説明。大阪府の教員採用試験の募集要項やエントリーシ

ートでの注意点や対策、また、平成22年夏に大阪府で出題された問題の解説を
交え、解答時の注意点や頻出分野などについての講義を受けた。実際の問題やエ
ントリーシートに触れる機会となった。

⑥ 幼稚園オリエンテーション「幼稚園教諭採用試験に向けての学習対策」

日 時：11月24日（水）4限

参加人数：10名

内 容：外部講師からの具体的な説明。今年度の募集状況や情報の集め方、頻出問題の解
答方法などの講義を受けた。また、4回生に進級するまでに学習習慣を定着させ
ることも目的とした。

⑦ 教職オリエンテーション「先輩による学校現場の話と教員採用試験体験談」

日 時：12月4日（土）14:00～16:00

参加人数：3名

内 容：昨年度、教員採用試験に合格した本学の卒業生と今年度の教員採用試験に合格し
た4回生を招き、教員採用試験の体験談や学校現場の話を行った。勉強方法や面
接対策など経験者による貴重な情報を入手できた。
授業との重複により、参加者が極端に少なかった。

⑧ 教職オリエンテーション「採用試験に向けてのワンポイントアドバイス」

日 時：1月12日（水）昼休み

参加人数：60名

内 容：外部講師によるワンポイントアドバイス。これまでの学習方法を振り返り、今後
の学習方法や対策を見つけ、有意義な春休みを過ごしてもらうためのアドバイ
スを行った。

⑨ 幼稚園オリエンテーション「幼稚園教諭採用試験体験談」

日 時：1月26日（水）5限



写真5 教職オリエンテーション資料



写真6 幼稚園オリエンテーション

参加人数：6名

内 容：採用試験の体験談や学習方法について、幼稚園への就職が内定している4回生3名から話を聞く機会を設けた。情報収集や勉強方法、面接対策など経験者にしか解らない貴重な情報を入手できた。

2. 教員を目指す2回生を対象としたオリエンテーション

① 教職オリエンテーション「教職をめざすにあたって」

日 時：6月8日（火）昼休み

参加人数：約100名

内 容：学生からの「どのように学習を始めたらいのかかわからない」という質問に応えるため、教職教育センターにある参考書や資料などの紹介等も含め、情報収集の方法や学習方法、ボランティアや園見学の重要性を説明した。

② 幼稚園オリエンテーション「幼稚園教諭をめざすにあたって」

日 時：6月18日（金）昼休み

参加人数：80名

内 容：幼稚園の種類と募集についてから、採用試験の項目や実施時期などについて説明した。日常の学習方法について具体的に説明し、早期からの学習習慣の定着を呼び掛けた。

③ 教職オリエンテーション「教職をめざすにあたって」

日 時：11月16日（火）昼休み

参加人数：71名

内 容：情報収集や勉強方法の再確認と参考書や資料などの紹介、今年の夏の教員採用試験の状況報告、および教師塾やボランティア活動の重要性を説明した。

④ 幼稚園オリエンテーション「幼稚園教諭をめざすにあたって」

日 時：11月19日（金）昼休み

参加人数：60名

内 容：情報収集や勉強方法の再確認と参考書や資料などの紹介、今年度の幼稚園教員採用試験の結果報告、基礎学習の重要性を説明した。

IV. 学校支援学生ボランティア

① 学校支援学生ボランティア説明会

日 時：4月14日（水）昼休み

参加人数：約 100 名

内 容：ボランティア活動を始めるにあたっての手続き等について

② 学校支援学生ボランティア研修会

日 時：4月28日（水）5限

参加人数：約 40 名

内 容：ボランティア活動を始めるにあたっての心構えや注意点などについて教職教育センター教員より講義を行った。

③ 学校支援学生ボランティア修了式

日 時：2月8日（火）2限

参加人数：約 20 名（修了証授与対象者 79 名）

内 容：学生からの活動報告と教職教育センター教員からの感想などを伝えた後、学長より修了証書を授与した。



写真7 学校支援学生ボランティア修了式



写真8 学校支援学生ボランティア修了式

V. おわりに

教職教育センターの役割や利用方法などを理解してもらうため、教員の協力を得て、1・2回生への案内を頻繁に行った。その結果、教職教育センターの場所や利用方法等が少しずつ浸透し、行事に関しても学生の反応に手応えを感じるようになってきた。

しかし、3回生の参加に関しては、限られたメンバーであるという印象が強く残り、学生の掘り起こしが大きな課題として残る。

特に参加者の多い行事を実施する際には、併せて教職教育センターの利用方法を案内し、学習習慣の定着へとつなげたい。加えて、掲示板や口コミでの情報伝達とうまく連動させて、学生のニーズをくすぐる広報が必要であると考える。

今年度の反省から、次年度の行事設定は、曜日や時間を配慮し、同じ行事を複数回実施する

教職教育センター年間行事の効果について

などして、学生の参加率向上へとつなげたい。

学生の意欲が高まったタイミングを逃さず、学習や現場での活動支援に結び付け、効果の拡大をはかりたい。

平成 22 年度 教職教育センター年間行事予定

2010. 5. 15 現在

カテゴリ	月	日(曜)	時間	行事名	内容
実習関連オリエンテーション	4月	21日(水)	昼休	介護等体験オリエンテーション前期①	今年度前期、介護等体験に行く学生対象
			5限 16:20~17:50	教育実習直前オリエンテーション(幼・小)	今年度、幼・小へ教育実習に行く学生対象
				教育実習内諾オリエンテーション(中・高)	23年度、中・高へ教育実習に行く学生対象
	4月	24日(土)	2・3限 10:40~14:30	介護等体験オリエンテーション前期②③	今年度前期、介護等体験に行く学生対象
		28日(水)	5限 16:20~17:50	教育実習直前オリエンテーション(中・高)	今年度、中・高へ教育実習に行く学生対象
	5月	12日(水)	昼休	介護等体験申込オリエンテーション	今年度後期、介護等体験に行く学生対象
	6月	9日(水)	5限 16:20~17:50	和泉支援学校介護等体験オリエンテーション	今年度後期、和泉支援学校へ介護等体験に行く学生対象
	7月	3日(土)	2限 10:40~12:10	教育実習内諾オリエンテーション(幼・小)	23年度、幼・小へ教育実習に行く学生対象
		7日(水)	5限 16:20~17:50	教育実習内諾オリエンテーション(特支)	23年度、特別支援学校へ教育実習に行く学生対象
	9月	17日(金)	2・3限 10:40~14:30	介護等体験オリエンテーション後期①②	今年度後期、介護等体験に行く学生対象
		22日(水)	4限 14:40~16:10	介護等体験オリエンテーション後期③	今年度後期、介護等体験に行く学生対象
		29日(水)	5限 16:20~17:50	教育実習内諾書提出オリエンテーション(幼・小)	23年度、幼・小へ教育実習に行く予定の学生対象
	10月	13日(水)	昼休	介護等体験申込オリエンテーション	23年度前期、介護等体験に行く学生対象
11月	4日(木)	昼休	大阪府内実習先振り分けオリエンテーション(特支)	23年度、大阪府内の特別支援学校へ教育実習に行く学生対象	
免許	11月	10日(水)	5限 16:20~17:50	教員免許状一括申請説明会	4回生 免許状取得見込み者対象
教員採用試験説明会	4月	14日(水)	4・5限 14:40~17:50	4回生対象 教職校内セミナー(大阪府・大阪市・堺市)	教育委員会講師による説明会(事前申し込み制) 各教育委員会ごとに設定した各教室を学生が訪問
	5月	19日(水)	4・5限 14:40~17:50	4回生対象 教職校内セミナー(和歌山県・奈良県・京都府・兵庫県)	
	12月	8日(水)	4・5限 14:40~17:50	3回生対象 教職校内セミナー(近隣教育委員会・詳細は後日掲示)	
講師登録説明会	9月	21日(火)	昼休 12:15~12:55	4回生対象 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明
	11月	2日(火)	昼休 12:15~12:55	4回生対象 講師登録説明会(予備日)	
4回生対象 教員採用試験対策講座	4月	28日(水)	4限 14:40~16:10	4回生対象 教員採用試験対策講座	面接・エントリーシート対策 志望動機・自己PRのつくりかた
	5月	8日(土)	14:00~16:00	4回生対象 教員採用試験対策講座 筆記試験対策を中心に	直前対策 外部講師による講演
		12日(水)	5限 16:20~17:50	4回生対象 幼稚園教員採用試験対策講座 筆記試験対策を中心に	〃
	6月	26日(水)	4・5限 14:40~17:50	4回生対象 教員採用試験対策講座	エントリーシート・面接対策(主に集団面接) 注意点および心得
		16日(水)	4・5限 14:40~17:50	4回生対象 教員採用試験対策講座 面接実践編	模擬面接 自己PR・志望動機を中心に

教職教育センター年間行事の効果について

4 回生対象 教員採用試験 対策講座	6～8 月	随時	随時	面接・グループワーク練習 (集団・個人・討論・模擬授業等)	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくは、HPにてお知らせ
		随時	随時	4 回生対象教員採用(幼稚園含む) 特別対策講座 図画工作・音楽実技・小論文・体育実技	〃
	7 月	7日(水)	4・5 限 14:40～17:50	4 回生対象 教員採用試験対策講座 面接実践編	模擬面接 自己 PR・志望動機を中心に
		14日(水)	5 限 16:10～17:50	4 回生対象 教員採用試験対策講座 特別支援教育編	採用試験で押さえておくポイントについて 講義
		28日(水)	4・5 限 14:40～17:50	4 回生対象 教員採用試験対策講座 二次面接編	模擬面接(個人)・集団討論・模擬面接対策等 講義及び実践二次試験対策
	8 月	随時	随時	4 回生対象 面接・グループワーク練習 (個人・模擬授業・場面設定・討論等)	模擬面接・模擬授業・集団討論対策 (一次試験合格者対象)
	教師塾等説明会	5 月	14日(金)	昼休 12:15～12:55	3・4 回生対象 堺・教師ゆめ塾説明会
18日(火)			昼休 12:15～12:55	3 回生対象 大阪市教師養成講座説明会	大阪市教育委員会担当講師による説明
21日(金)			昼休 12:15～12:55	3 回生対象 大阪教志セミナー説明会	大阪府教育委員会担当講師による説明
31日(月)			昼休 12:15～12:55	3 回生対象 ディア・ティーチャー・プログラム説明会	奈良県教育委員会担当講師による説明
3 回生対象 オリエンテーション (対策等)	5 月	12日(水)	4 限 14:40～16:10	3 回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種
		25日(火)	昼休 12:15～12:55	3 回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教諭を目指すにあたって	学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む)
	6 月	1日(火)	昼休 12:15～12:55	3 回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって(予備日)	5/12(水) 予備 (注) 開講しないこともあります。
		4日(金)	昼休 12:15～12:55	3 回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教諭を目指すにあたって(予備日)	5/25(火) 予備 (注) 開講しないこともあります。
	10 月	6日(水)	5 限 16:20～17:50	3 回生対象 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4 回生との交流)
		20日(水)	4 限 14:40～16:10	3 回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教諭採用試験対策	秋から始める勉強について 幼稚園教員採用試験体験談(4 回生との交流)
	11 月	17日(水)	5 限 16:20～17:50	3 回生対象 教職オリエンテーション 筆記試験対策を中心に (小・中・高・特支・政令指定都市の幼)	教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演
		24日(水)	4 限 14:40～16:10	3 回生対象 幼稚園オリエンテーション 筆記試験対策を中心に(私立幼稚園含む)	次年度の幼稚園教諭採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演
	1 月	4日(土)	14:00～16:00	3 回生対象 教職オリエンテーション 教員の魅力と採用試験について	学校現場の話および教員採用試験体験談 OG によるディスカッションと交流
		12日(水)	昼休 12:15～12:55	3 回生対象 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般教養・教職教養対策を中心に	次年度の教員採用試験に向けての ワンポイントアドバイス 外部講師による講演(有料講座の説明を含む)
26日(水)		5 限 16:20～17:50	3 回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教諭の魅力と採用試験について	幼稚園現場の話および教員採用試験体験談 OG によるディスカッションと交流	
オリエンテーション 2 回生対象	6 月	8日(火)	昼休 12:15～12:55	2 回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	勉強の進め方、資質の向上について 講義
		18日(金)	昼休 12:15～12:55	2 回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教諭を目指すにあたって	〃
	11 月	16日(火)	昼休 12:15～12:55	2 回生対象 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	小・中・高・特支 勉強の進度チェックおよび資質の向上について 講義
19日(金)		昼休 12:15～12:55	2 回生対象 幼稚園オリエンテーション 幼稚園教諭を目指すにあたって	幼稚園教諭希望者対象 勉強の進度チェックおよび資質の向上について 講義	
教師のお仕事入門	6 月	9日(水) 23日(水)	11:00～12:30	1 回生対象 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問
	9 月	詳細は 後日決定		1 回生対象 教師のお仕事入門 (小学校、小・中学校、高等学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問
	2～3 月			1 回生対象 教師のお仕事入門(小・中学校、高等学校)	〃

教職教育センター年間行事の効果について

学校支援ボランティア学生	4月	14日(水)	昼休 12:15~12:55	学校支援学生ボランティア説明会	22年度にボランティア活動を行う予定の 学生対象
		28日(水)	5限 14:40~16:10	学校支援学生ボランティア研修会	〃
	2月	8日(火)	2限 10:40~12:10	学校支援学生ボランティア修了式	22年度にボランティア登録をし、活動を行った 学生対象
模擬試験	4月	10日(土)	9:30~13:20	有料 教職模試(出題:時事通信社)	幼・小・中・高・特支 教職教養、一般教養、専門教養、論作文
		17日(土)	9:30~12:50	有料 教職模試(出題:東京アカデミー)	小・中・高・特支 教職・一般教養、専門教養
	5月	8日(土)	9:30~13:20	有料 教職模試(出題:時事通信社)	幼・小・中・高・特支 教職・一般教養、専門教養、論作文
		15日(土)	9:30~12:50	有料 教職模試(出題:東京アカデミー)	幼・小・中・高・特支 教職・一般教養、専門教養
	6月	5日(土)	9:30~13:20	有料 教職模試(出題:時事通信社)	幼・小・中・高・特支 教職・一般教養、専門教養、論作文
	12月	4日(土)	9:30~13:20	有料 教職模試(出題:時事通信社)	〃
	1月	16日(日)	9:30~12:50	無料 教職模試(出題:東京アカデミー)	小・中・高・特支 教職・一般教養、専門教養
有料 対策講座	7月		詳細は 後日決定	有料講座案内のための説明会	長期休業中開催の有料講座の募集案内
	8~9 月		詳細は 後日決定	有料講座 一般教養コース	時事通信社・東京アカデミー担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策
	2~3 月		詳細は 後日決定	有料講座 教職教養・専門教養各コース (小学校・中高国語・中高英語・中高社会・中高保健)	〃

*使用する教室につきましては、掲示版でお知らせします。日程や時間等が変更になることもありますので、教室とあわせて確認しましょう。

【事業報告】

「実践アクセス講座」（公開講座）に取り組んで

——「なりたい」意欲を基盤に、教員としての資質能力の向上
をめざす「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の役割——

徳田喜代士*

1. はじめに

教職教育センターが開設され2年を終えようとしている。

教職教育センターでは、教員免許を取得するための指導・支援だけではなく、教員に「なりたい」学生が、教員として活躍できるための資質能力の向上をめざし、様々な取り組み・支援を行ってきた。

その一つとして、キャリア教育科目としての「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の授業がある。この授業の大きな柱の一つが、教育現場の先生方、教育行政に携わっておられる方々をゲストティーチャーとして招聘し、その豊かな体験や実践から直接学ぶことができる「実践アクセス講座」である。

「実践アクセス講座」は、正課内授業を利用した講座ではあるが、公開講座として広く教員をめざす全学部生に参加を呼びかけ、実施している。

本稿では、上記の「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」とその大きな柱としての「実践アクセス講座」について、その目的と意義、本年度の実施内容の概要について報告するとともに、成果と今後の課題について述べたい。

2. 「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の目的と意義

(1) 今、求められる教員としての資質能力

豊かな経験を持った教員の大量の退職に伴う、新規教員の大量採用の時代が続いている。教員採用試験に合格した者、講師として採用された者等、採用の形態は様々であるが、新規教員として教壇に立つ。子どもたちや保護者、地域の方々にとっては、新規教員であっても、ベテ

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

ラン教員となんらかわらない「先生」として、4月当初よりその任にあたり、その資質能力が問われることになる。

本学に於いても、毎年、200名近くの新規教員を幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教育現場に送り出している。昨今の状況では、新規教員であっても、とりわけ幼稚園・小学校では、学級担任を担うことが多い。即ち、赴任当初より、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」などの「生きる力」の育成や、いじめ、不登校、学級崩壊、学力低下問題等の様々な課題への対応にすぐに直面することになり、「先生」としての実践的な指導力が、即、問われることになる。故に、いかにして、大学の教員養成課程の中で、「先生」としての力を育むかが、喫緊の課題として、教員をめざす学生個人とともに、教員養成大学としての本学の教員養成の質を、厳しく問われていると言って過言ではない。

文部科学省は、教員に求められる資質能力（求める教員像）を以下のようにまとめている。

○教師の仕事に対する強い情熱

教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など

○教育の専門家としての確かな力量

子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導力、学級づくりの力など

○総合的な人間力

豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力など

各都道府県・政令指定都市が求める教員像もよく似た内容である。

近畿圏の2010年度教員採用試験要項等に見られる教員像を整理すると、ほぼ全ての府県市が「情熱・使命感」「人間性・社会性」「専門性・指導性」「コミュニケーション・信頼関係」のいずれかに大別可能である。（大阪大谷大学教職教育センター紀要 第1号 開沼太郎「教員の資質向上政策のあり方に関する考察－『採用』段階における『対策』機能に着目して－」より）

各都道府県・政令指定都市教育委員会は、それぞれの求める教員像を踏まえ、教員採用選考時における「人物重視」＝「面接重視」の方針を打ち出している。その具体的な一つの手立てとして、面接時における「模擬授業」、「場面指導」（ロールプレイング）等を近年重視している。

例えば、大阪府の「模擬授業」（2009年度～）、大阪市の「場面指導」（2009年度～）、堺市

の「模擬授業」（2009年度～）と「場面指導を踏まえた集団討論」（2010年度）等の実施があげられる。これは、全国的な傾向でもある。

即ち、どの教育委員会もより深い子ども理解と豊かな人間性、確かな専門性を基盤とした実践的な指導力、資質能力を持ったすぐにでも活躍できる教員を、面接等を通じて、見出そうとしていると言える。

(2) 「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の目的と意義

「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」は、前項(1)今、求められる教員としての資質能力を培うために、端的に言えば、学校現場の実践から直接学ぶこと、「模擬授業」、「場面指導」等を通じて実践的な指導力を養うことの必要性から生まれた科目である。

「学校教育演習Ⅰ」（3回生以上）「学校教育演習Ⅱ」（4回生）は、いずれもキャリア教育科目として位置づけられ、全学部生が履修することができるが、卒業必要単位には加算されない。故に、受講する学生の「教員になりたい」思いが前提として共有されている授業でもある。

「学校教育演習Ⅰ」は、子ども理解を深めることを基盤に、教員としての生徒指導、学習指導力の基礎・基本を培うこと、「学校教育演習Ⅱ」は、次年度には教育現場に立つ教員として、現在の教育現場の課題を見つめ、教職希望者としての自覚を深め、その資質能力の向上をめざすことを目的に実施した。

また、「実践アクセス講座」は、「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の大きな柱として、子どもたちの現実、教育現場の現実を見つめ、今日の教育課題を肌身に感じとり、懸命に取り組んでおられる教育行政の方々、現場の先生方の実践から学ぶことを通じて、教職をめざす自己の生き方を見つめ直し、教員として生きる生き方の厳しさと喜びを見つめること、そのことを基盤として、教員としての資質能力、実践的な指導力を培うことを目的に実施した。

以下は、「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」を受講した4回生の感想である。「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の意義について、受講しての体験に基づいて述べている。

『この授業を受講して本当に良かったと思います。現場の先生方の講義、他の学部生（他の教科の教員をめざす人）との出会いは、私にとって良い刺激になりました。場面指導、模擬授業なども、他の学部生だからこそ、評価する観点が違ってとても参考になりました。4月から実際の教育現場に立つことができますが、不安はたくさんあります。しかし、この授業の中で、多くの人から「面白いです」「模擬授業、良かった」などと言ってもらえたことは、自信につながりました。単に免許を取得して現場に出るのではなく、大学生活の最後

に、この授業に参加できたことは、私にとって、大きな経験になりました。必ず、良い教師になってみせます。応援よろしく申し上げます。「出会いに感謝、経験に感謝。』

3. 「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の概要

(1) 「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の概要

本年度実施した「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」の概要は以下の通りである。

①「学校教育演習Ⅰ」

a. 対象

教職をめざす3年生以上の全学部生

b. 目的（授業テーマ）

子ども理解を深め、教員としての生徒指導、学習指導等の指導力の基礎・基本を培う

c. 授業の進め方

- ・毎時間、グループ活動を取り入れる。（随時、グループ編成替えを行う）
- ・毎時間、個人で考える場面、グループで考える場面、全体に発表し全体で考える場面を持ち、授業の組織化を図る。
- ・毎時間、授業のまとめを「振り返りシート」に記入する。
- ・教育現場の実践から学ぶ「実践アクセス講座」を授業に位置づける。

d. 授業の内容

	内容
1	子どもとの出会いを大切に（めざす教師像、大切な「第一声」）
2	子どもの「よさ」を見つめる学級づくり・生徒指導①
3	子どもの「よさ」を見つめる学級づくり・生徒指導②
4	実践アクセス講座 その1 「中学校における学級集団づくり」
5	学級づくり、生徒指導力の向上をめざしての演習（場面指導）①
6	実践アクセス講座 その2 「子ども理解と生徒指導」
7	学級づくり、生徒指導力の向上をめざしての演習（場面指導）②
8	実践アクセス講座 その3 「国語の授業とその実際」
9	子どもの「よさ」を引き出す授業づくり・学習指導①
10	子どもの「よさ」を引き出す授業づくり・学習指導②
11	授業づくり、学習指導力の向上をめざしての演習（模擬授業）①
12	授業づくり、学習指導力の向上をめざしての演習（模擬授業）②
13	実践アクセス講座 その4 「授業づくりと集団づくり」

「実践アクセス講座」（公開講座）に取り組んで

14	授業づくり、学習指導力の向上をめざしての演習（模擬授業）③
15	学級づくり、生徒指導力の向上をめざしての演習（場面指導）③、及び、保護者・地域との連携と本演習のまとめ

②「学校教育演習Ⅱ」

a. 対象

教職をめざす全学部の4回生

b. 目的（授業テーマ）

- ・教職に関する基礎的な内容について理解し、教職志望者としての自覚を深める。
- ・教職にふさわしい人格と熱意を滋養し、教職への自己の展望を深める。

c. 授業の進め方

- ・毎時間、グループ活動を取り入れる。（随時、グループ編成替えを行う）
- ・個人で考える場面、グループで考える場面、全体に発表し全体で考える場面を持ち、授業の組織化を図る。
- ・毎時間、授業のまとめを「振り返りシート」に記入する。
- ・教育現場の課題や実践から学ぶ「実践アクセス講座」を授業に位置づける。

d. 授業の内容

	内容
1	子どもとの出会いを大切に（めざす教師像、大切な「第一声」）
2	実践アクセス講座 その1 「教職をめざすに当たって」①
3	実践アクセス講座 その2 「学力の向上について」
4	実践アクセス講座 その3 「子どもの心に寄り添う生徒指導」
5	実践アクセス講座 その4 「子どもの心とつながる人権教育」
6	実践アクセス講座 その5 「特別支援教育について」
7	確かな自己表現力を -面接指導を通して- ①
8	確かな自己表現力を -面接指導を通して- ②
9	実践アクセス講座 その6 「教職をめざすに当たって」②
10	学習指導力の向上をめざして -模擬授業に取り組もう- ①
11	学習指導力の向上をめざして -模擬授業に取り組もう- ②
12	生徒指導力の向上をめざして -場面指導に取り組もう- ①
13	生徒指導力の向上をめざして -場面指導に取り組もう- ②
14	生徒指導力の向上をめざして -場面指導に取り組もう- ③
15	保護者、地域との連携と本演習のまとめ

③「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」を受講しての感想

以下は、「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」を受講しての感想である。グループ活動を通じて、発表する力がついたこと、自信がついたことを述べている。

『始めは、人の前で発表したり、グループで意見を出し合うのは、少し抵抗があったり、恥ずかしかったりしたのですが、回数を重ねるごとにつれ、段々と発表することにもなれ、楽しいとも感じられるようになりました。堅苦しく、ただ聞くだけの授業でなく、自分も参加型の授業でとてもためになったし、楽しかったです。』

『学校教育演習を受けて、良かったと思う点は、外部からの先生方のお話をたくさん聞けた点です。子どもと関わると同じぐらい貴重な時間でした。また、実践的に取り組めたことで、少し自信がついたように感じます。』

(2)「実践アクセス講座」（公開）の概要

大阪府教育委員会や近隣の教育委員会、小・中学校に協力をいただき、指導主事の方々、校長先生、現場の先生方をゲストティーチャーとして招聘し、豊かな体験や実践に基づく貴重な講演をしていただいた。いずれの講演も、子どもに対する深い愛情、熱い思いの溢れるものであり、教職をめざす学生の心を揺さぶるものであった。

その概要は、以下のとおりである。

①目的

今日の子どもたちの現実、教育現場の現実を見つめ、今日の教育課題を肌身に感じとり、懸命に取り組んでおられる先生方の実践から学ぶことを通じて、教職をめざす自己の生き方を見つめ直し、教員として生きる生き方の厳しさと喜びを見つめる。

以上を基盤として、教員としての資質能力の向上、指導力の向上を実践的に学ぶ。

②内容

a. 学校教育演習Ⅰの「実践アクセス講座」の内容

	テーマ	講師
①	平成 22 年 10 月 15 日（金） 中学校における学級集団づくり	羽曳野市立羽曳野中学校 教諭 伊藤 圭 先生
②	平成 22 年 10 月 29 日（金） 子ども理解と生徒指導	松原市立松原第六中学校 校長 白樫雅洋 先生
③	平成 22 年 11 月 19 日（金） 国語の授業とその実際	大阪狭山市教育委員会 授業づくりアドバイザー 山本 章 先生

「実践アクセス講座」（公開講座）に取り組んで

④	平成 23 年 1 月 7 日（金） 授業づくりと集団づくり	堺市立大仙西小学校 教諭 藤林美江 先生
---	-----------------------------------	-------------------------

b. 学校教育演習Ⅱ（実践アクセス講座）の内容

	テーマ	講師
①	平成 22 年 4 月 23 日（金） 教職をめざすに当たって ～あなたの♥を子どもたちに～	園田学園女子大学非常勤講師 元小学校長 鍛冶 彰 先生
②	平成 22 年 5 月 7 日（金） 学力の向上について	大阪府教育委員会小中学校課 主任指導主事 榊田千佳 先生
③	平成 22 年 5 月 14 日（金） 生徒指導について ～子どもの心に寄り添う生徒指導～	大阪府教育委員会児童生徒支援課 主任指導主事 中村昌子 先生
④	平成 22 年 5 月 21 日（金） 子どもの心とつながる人権教育をめざして	貝塚市立西小学校 校長 明石一朗 先生
⑤	平成 22 年 5 月 28 日（金） 特別支援教育について	大阪府教育センター 授業力向上指導員 川戸明子 先生
⑥	平成 22 年 6 月 18 日（金） 教職をめざすにあたって大切にしたいこと	羽曳野市立羽曳野中学校 校長 墨村未来士 先生

③ 「実践アクセス講座」を受講しての感想

以下は、受講しての感想である。どの感想も自己の課題と結びつけて述べている。

『先生のお話を聞いて、とても感動して泣きそうになりました。何よりも思ったのが、「やっぱり、僕も『先生』になりたい」と思ったことと、1つでも生徒の助けになるために、僕自身が多くのことを知って教えられる様になっていないといけない」と思ったことです。課題を持った生徒たちが立ち上がった時に、僕自身の力が及ばず、支えになれなかったら本当に悔しいと思ったからです。』

『今日、保護者と子どもとの関係や保護者の現状などを知ることができ、子どもの問題が深く関係していることがわかりました。子どもには一人ひとりそれぞれ違った異なった問題を抱えており、教師はそれらのすべてに対応しなくてはならないと感じました。しかし、それらの複雑な課題の解決することができた時は子どもたちと一緒に喜びを分かち合えると思い、改めて教師という職業の素晴らしさを実感しました。』

『先生も言われていたように、私も「笑顔」を大切にしたいと思っています。先生のお話を聞いて、子どもの表情をよく見て、少しの変化に気付くことがとても大切だなと思いまし

「実践アクセス講座」（公開講座）に取り組んで

た。子どもたちの表情に気付いてあげることで、結果的にクラスのみんがが変わっていく実践にとっても感動しました。今日は、本当に先生からパワーをもらいました、Aさんを応援する子どもたちの姿にふれて、私も泣きそうになりました。このような関係づくりができたらなと思いました。』

④「実践アクセス講座」の広がり－「総合的な学習の研究」、「教職研究」にも広げて－

「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」だけでなく、「総合的な学習の研究」、「教職研究」においても、本年度、以下の通り、ゲストティーチャーとして学校現場の先生方に来ていただいた。また、同様に「公開講座」として全学部生に呼びかけ実施した。先生方の具体的で、子どもの姿が見える実践、講演は、学生の心を強く揺さぶった。100の言葉より1つの真実、事実。現場の先生方の実践に基づく、生きた言葉は、聴く者の心に深く浸みいるものであることをあらためて実感するものであった。

a. 「総合的な学習の時間」の研究（実践アクセス講座）

	テーマ	講師
①	平成22年10月22日（金） 錦郡小学校における総合学習 ～子ども商人の取り組みを中心にして～	富田林市立錦郡小学校 校長 松村弘治 先生
②	平成22年11月5日（金） 人間関係づくりの実際 －中学校における総合的な学習の時間の実践－	松原市立松原第七中学校 教諭 深美隆司 先生 教諭 井上享子 先生
③	平成22年11月19日（金） 布小タウンワークス －小学校における総合的な学習の時間の実践－	松原市立布忍小学校 教諭 岡林美紀 先生

b. 教職研究（実践アクセス講座）

	テーマ	講師
①	平成22年11月29日（月） 道徳の時間の指導の実際 ～模擬授業を通して～	河内長野市立長野小学校 教諭 中谷和生 先生

c. 受講生の感想

以下は、受講生の感想である。ゲストティーチャーの先生方の講演は、保護者や地域の方々の子どもに対する思い、子どもの良さを見つめることの大切さ、そのなかでの教員のあり方についてより深く問うものであり、受講生にとっては、教員をめざす自己のあり方について、より深く見つけ直す機会となった。

『今日のお話の中で驚いたことは、売り物である商品を地域の方々が無償で提供してくださ

っているということです。地域の方々が子どもたちのために、子どもたちの勉強のために、
とすることで、この取り組み（子ども商人）に協力されているのだと思います。地域全体で
子どもを育てるという気持ちに、とても感動しました。』

『M くんのお話を聞き、厳しい家庭環境の子どもが多くいること、辛い気持ちを打ちあけられ
なくて悩んでいること、保護者の方も「自分が原因だ」と自分を責めてしまっていることを
知って心が痛くなりました。「良い部分を見つけにくい子どもの良いところこそ見つけてあ
げたい。」という先生の思いがよく伝わりました。私の子どもに対する考え方が良い方向に
変わりました。』

『自分史学習での A くんのお話を聞いてとても感動しました。子どもたちが自分のことを知り、
勇気を持って仲間に話していく中で、周りの人との関係づくりが変わっていくのだな、
と感じました。教師としての役割は、子どもの心の裏にあるものを知って、いい所を引き出
していくということなのだとして強く感じました。一人ひとりとしっかり向き合っていけるよう
な教師になりたいと思います。』

『相手にセンターをおくということが、いかに大事かがわかりました。教師は、教えるので
もなく押しつけるのではなく、子どもの認知力を高める支援をしていくことが大切だと思
いました。相手に伝えようと努力できる子どもに成長させたいと思いました。』

4. 「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の成果と課題

東京都教育委員会は、教員の養成、採用、採用後の育成を一体のものとして捉え、教育行政
として実施すべき施策の検討を行っている。その中で、大学の教員養成課程の現状と課題を明
らかにしている。平成 21 年 5 月、採用 2 年目の教員及び所属校管理職にヒアリングを行い、
今日の大学が対応することの必要になった課題として、①実践的な指導力の育成、②学術的知
見の現場への活用、③コミュニケーション能力の育成、④組織の一員として仕事ができる力の
育成、⑤今日的課題への対応の 5 点をあげている。以上を基にして、「学校教育演習Ⅰ」「学校
教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の成果と今後の課題について述べたい。

(1) 成果

①実践的な指導力の育成

生徒指導力の向上をめざす演習（場面指導）、学習指導力の向上をめざす演習（模擬授業）

「実践アクセス講座」(公開講座)に取り組んで

に取り組んだ。いずれも、個人の考えを基にグループで討議しグループとして実施する演習、個人で考え、個人で実施する演習を積み重ねた。そして、互いの評価活動を必ず行うことにより、より実践的な指導力の育成に繋がり、それぞれの成長を得ることができた。

②学術的知見の現場への活用

「実践アクセス講座」の実施は、ゲストティーチャーとして協力をいただいた教育委員会、学校現場との連携を一層深めることに繋がった。その結果、本学の教員が、教育行政の研修の場や校内研究会の講師として学校現場に招かれることが増え、双方向の連携が進んだ。

③コミュニケーション能力の育成

授業の1講目には、必ず「心を開くことの大切さ、自分を語ることの大切さ」を伝えている。そのため、より多くの学生が交流し、相手の話を聞き、自らの考えを話す場としてのグループ活動を大切にしたい。グループ討議、討議した内容等の全体への報告・発表を、可能な限り実施した。互いの表現の仕方を学び合う中で、どの受講生も自己表現力を鍛えることができた。

④組織の一員として仕事ができる力の育成

「実践アクセス講座」のゲストティーチャーの方々が話される内容で、どなたもが、強調されるのは、学校が組織として一体となって取り組むことの大切さであり、地域・保護者の方とともに歩むことの大切さである。「チーム」として動く、「チーム」として仕事をするものの必要性、重要性を生きた実践を通じて学ぶことができた。

また、授業の始めと終わりには、全員が立って挨拶することを積み重ねた。このことは、授業に緊張感をもたらすとともに、教職につくものとしての自覚、意気込みに繋がった。

⑤今日的課題への対応

「学校教育演習Ⅱ」では、今日的な教育課題であり、また普遍的な教育課題でもある「学力向上」「生徒指導」「人権教育」「特別支援教育」の現状と課題について、「実践アクセス講座」を通して、学ぶことができた。ゲストティーチャーの豊かな経験と、より深い子ども理解に基づく講演は、課題解決に向けての指針となった。

「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の受講を機に、学生支援学生ボランティアへの参加を希望する学生が増えている。それも、ボランティアを通じて、教育現場から学び、自己の課題を見つめ、教職への思いを確かなものとし、自らの資質能力を高めようとする学生が増えている。この結果こそ大切にしたい。

(2) 今後の課題

- 「学校教育演習Ⅰ」の受講生は54名(文学部3名、人間社会学部8名、教育福祉学部43名)、「学校教育演習Ⅱ」の受講生は48名(文学部11名、人間社会学部11名、教育福祉学

部 26 名)であった。受講者数は、期待していたほどにならなかったのは、新設科目であったことと、オリエンテーションでの呼びかけが不十分であったためと考える。「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」は、現場の実践から直接学べる「実践アクセス講座」や実践的な指導力を培う演習も多くあり、教員をめざす学生にとって得るところが大きいため、受講者数の拡大のために、受講呼びかけを更に積極的に行う必要がある。

- また、「公開アクセス講座」として、広く受講生以外の聴講を呼びかけたが、周知徹底には至らなかった。次年度は、周知方法の一層の工夫を行い、聴講生を増やしたい。
- ゲストティーチャーとして、教育行政、学校現場の先生方を招聘した。その成果を引き継ぐとともに、保護者・地域の方の子どもたち、学校や地域に対する思いや願いに学ぶ学習を計画する必要がある。
- コミュニケーション能力を培うため、グループ活動、全体の中で発表する体験等を意図的に実施し成果を得たが、より一層、自己表現力を高めるための授業の工夫・改善に取り組む必要がある。

5. おわりに

「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」は、教職教育センターの開設とともに、センターの教員採用試験に向けた「対策」事業の1つとして出発している。

その意義と可能性について、以下の通り昨年度、提起されている。

『免許取得に関するハードルと教員採用に関するハードルに大きな格差が存在してきた教育界において、「養成」段階が主たる指導の内容である大学では、多くの学生にとって「開放性の原則」の中で教員免許を取る過程自体は大したモチベーションの向上にはつながらず、実際に採用試験の対策の段階になってはじめて目の色が変わり、力を注ぐことが多かった。本稿で提言した「対策」機能における指導が十分に作用すれば、「養成」との連動によって形骸化の回避にもつながり、教員の資質の実質的な向上に大学が貢献することにも現実的なものとなる。』（大阪大谷大学 教職教育センター紀要 第1号 開沼太郎「教員の資質向上政策のありに関する考察－『採用』段階における『対策』機能に着目して－」より）

「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」は、正に、教員採用試験への「対策」をその源としているが、本稿で報告させていただいたように、教員としての資質能力の「養成」機能として、貢献することができたと考える。

また、2010年4月入学者より、教職課程を履修する学生には、「教職に関する科目」の一つ

「実践アクセス講座」（公開講座）に取り組んで

として「教職実践演習」（必須）が新設された。

「学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。」（「今後の教員養成・免許制度の在り方について〔答申〕」より抜粋 2006年中央教育審議会）

と、述べられている。

この「教職実践演習」は、「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の取り組みと連動するとともに、重なる内容も多い。2013年からの本格的な実施に向けての大きな力となるものと期待される。

次年度も、「学校教育演習Ⅰ」「学校教育演習Ⅱ」と「実践アクセス講座」の更なる充実、発展に向けて取り組んでいきたい。

何よりも、「教員になりたい」学生の教員としての資質能力の向上、実践的な指導力の向上をめざして。

【事業報告】

教師のお仕事入門 (小学校・中学校・高等学校体験)

宇野 佳子*

1. 目 的

- 小学校・中学校・高等学校を訪問し、学校現場の様子を知る。
- 児童・生徒との交流を深める。

2. 対 象

- 文学部（日本語日本文学科、英米語学科、文化財学科）・教育福祉学部教育福祉学科・人間社会学部人間社会学科の1回生

3. 内容（場所・年月日・参加者数）

- 小学校 富田林市立錦郡小学校
第1回 平成22年6月9日(水) . . . 37名
第2回 平成22年6月23日(水) . . . 43名
第3回 平成22年9月10日(金) . . . 25名



於：錦郡小学校

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

教師のお仕事入門（小学校・中学校・高等学校体験）

○中学校 ・ ・ ・ ・ ・ 堺市立さつき野中学校・さつき野小学校

第1回 平成22年9月16日（水） ・ ・ ・ 7名（中学校のみ）

第2回 平成23年2月17日（木） ・ ・ ・ 17名



さつき野中学校



さつき野中学校

○高等学校 ・ ・ ・ ・ ・ 大阪府立河南高等学校

第1回 平成22年9月7日（火） ・ ・ ・ 9名

第2回 平成23年2月15日（火）（受入れ校の都合で中止）

4. 実施概要

○小学校では ・ ・ ・ ・ ・

授業の参観だけでなく、給食・そうじ・遊び等を通じて児童と交流することで、子どもとの距離が近づいた。その後、校長先生から錦郡小学校の取組み・児童の様子等のお話があった。

○中学校では ・ ・ ・ ・ ・

3・4時限の授業を参観した。校長・教頭先生から、小中一貫教育の取組みや、教員としての喜びなどのお話があった。質疑応答の時間を設けて頂き、学生たちの意欲が一気に高まった。午後からは、堺市立さつき野小学校の授業も参観した。

○高等学校では ・ ・ ・ ・ ・

3・4時限の授業を参観した。先生方の取組みや工夫を知るだけでなく、行事（文化祭）前の雰囲気も体験することで、教員としての視点を磨くことができた。

5. 参加学生の感想より

- ・「はじめて、『先生』と呼ばれ、うれしかった。」
- ・「教員になりたいというモチベーションが急激にあがった。」
- ・「中学生と一緒に英語の授業を受けて、楽しかった。」
- ・「早く、子どもたちと話したい。かかわりたいと思った。」
- ・「生徒ではない立場から学校の様子を知れて、よかった。」
- ・「機会があったら、また、ぜひ参加したい。」
- ・「中学校の先生が、小学校の体育の授業をしていた。小学生でも自分たちで体操したり、なわとびが上手なので感動しました。」
- ・「『教師とはどのようなものなのか』と校長先生に聞かれたとき、改めて考えると難しかった。」

6. 成 果

「教員になりたい」という思いを持って入学してきた学生が、1回生という早い段階で、学校現場を訪問することの意義をあらためて感じた。学生は、具体的に「学校現場を知る」「子どもを知る」という体験を通して、教員になりたいという夢の実現をめざし、目的意識を持って大学生活を送ることの大切さを再確認してくれたと思う。何よりも参加した学生が、きりっとした姿勢で学校を訪問し、いきいきと児童・生徒と交流する姿や、去りがたく児童・生徒と別れを惜しむ姿にも表れていた。

小学校と中学校、中学校と高等学校の両方に参加した学生が複数いた。このことは、自己の進路選択についていろいろな校種を体験し、比較することから将来を考える学生の「教員になりたい」という意欲が感じとられた。

また、インターンシップ・学生ボランティア活動等を体験していない1回生の学生にとっては、教育実習前の取り組みとして、とても意義深いものになった。

7. 課 題

小学校への参加は、大学の授業期間中であり、学生全員の講義がない時間帯で近隣の小学校ということもあり、多数の参加者があった。しかし、1回目は訪問時間が短くじっくり見学・交流できないという意見があったので、2・3回目は、給食と授業参観のコマ数を増していた

だくことで改善できた。

中学校と高等学校の実施日は本学の夏季・春季休業期間を利用した実施であるが、高等学校への参加者が少なかった。学生への周知方法を工夫する必要がある。

中学校では、学生の参観希望教科と体験校の実施授業に少し偏りがあった。

今後は、学生の参観教科の希望を早く伝える等、工夫が必要かと思われる。

高等学校においては、実施校の都合により一回のみの実施となり、生徒との交流を深めるに至らなかった。

大阪大谷大学教職教育センター紀要
第 2 号

2011 年 3 月 10 日発行

編集発行 大阪大谷大学教職教育センター
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3 丁目 11-1
電話 (0721) 24-9891